

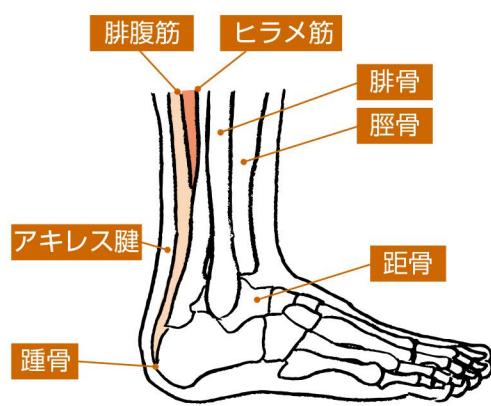
下肢の外傷疾患

北アルプス医療センターあづみ病院
整形外科医長

狩野 修治

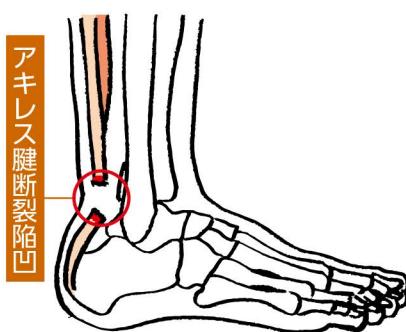
第2回ではアキレス腱断裂について紹介させていただきます

■アキレス腱とは



アキレス腱とは下腿後面のふくらはぎをつくる腓腹筋とヒラメ筋が一緒にになって、踵に付着している腱のことです。これらは足首を底屈・踏み込む、立った状態で踵をあげるといった動作の力を伝えます。また身体の中でもっとも太い腱といわれています。

アキレス腱断裂の発生は30～40歳に多く、50代にもう一つのピークがあります。さらにアキレス腱断裂の60～81%がスポーツの活動中といわれています。



受傷時は、アキレス腱を後ろから叩かれたような、ボールをぶつけられたような、ポンと音がした、ぶちと切れた音を感じたなどの自覚症状を訴えることが多く、断裂後痛みを感じます。しかし歩行が必ずできないという場合があります。歩けるから大丈夫

■症 状

受傷時は、アキレス腱を後ろから叩かれたような、ボールをぶつけられたような、ポンと音がした、ぶちと切れた音を感じたなどの自覚症状を訴えることが多く、断裂後痛みを感じます。しかし歩行が必ずできないという場合があります。歩けるから大丈夫



■トンプソンテスト

ふくらはぎをつかむと足部が動きます。断裂があると足部のうごきが起きません。

■予 後

アキレス腱断裂後、約10%程度の筋力低下や足関節の可動域制限があることが指摘されていますが、ほとんどの方がもとの仕事や競技に復帰できるとされています。さらに仕事や競技への復帰への期間ですが、仕事や競技の内容により異なりますので、競技や業務内容についてお教えいただいた上で、相談していくことになります。

というわけではありませんので注意が必要です。

アキレス腱部断裂部には陥凹をふれることができます。腫脹により触れにくい場合と、また時間が経つてしまい触れにくくなることがあります。またふくらはぎをつかんだとき足関節の動きがでない（Thompson Test）といつた所見が診断に有用とされます。これらの身体所見からほんどの症例の診断が可能ですが、超音波検査やMRIといった検査でさらに確実な診断が可能となります。あやしいと感じた時はすぐに受診してください。

■治療方法

治療方法には保存治療（ギプス固定・装具固定）と手術治療があります。合併症をおこさなければどちらも有効とされていますが、合併症として再断裂の可能性が手術治療では1.5～2.2%と報告されているのに対し、保存治療群では10%前後あると報告があります。報告により差はないとするものもありますが、数値としては保存治療の方が再断裂の確率がたかく報告されています。当院でも基本的に手術治療をおすすめします。